# ガタガタ通信

MIZUBE NI ASOBU KAI

No.70
2018・秋の号
発行
NPO法人
水辺に遊ぶ会
大分県中津市中央町2-8-35
info@mizubeniasobukai.org

## ど～する？ 海の未来、地球の未来

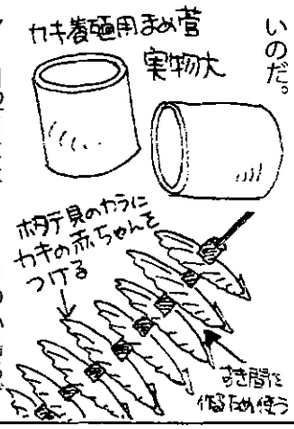
### ゆられゆられてどんぶらこ。海ごみ問題は更に深刻になっている。

▼この夏、テレビや新聞では「海のプラスチックごみ」の話題がたくさん取り上げられた。鼻にストローが刺さったウミガメの動画は世界中で3千万回も視聴されたという。

やっと、海のごみの話題がたくさんの人に知ってもらえてよかった、と思うと同時に、ただのブームに終わってしまうのではないかという危惧もある。そうだよ、ガタガタ読者の皆さんはそんなことずううっと前から知ってるよね。

▼さて、毎年秋のビーチクリーンの時に参加しているICC（国際海岸クリーンアップ）2017の報告が日本の海ごみ問題に30年の間精力的に取り組んでいるJEANから届いた。読んでびっくり。国内総合トップテンに異変が起こっている。今まで皆さんに、「多い海ごみ」としてお伝えしてきた硬質プラスチック破片や発泡スチロール破片、シートや袋の破片を抜いて、牡蠣養殖用まめ管がトップになっていた。確かに中津の海岸でも昔に比べて目にする数が多くなっていると感じている。20センチメートル前後の養殖用パイプは主に広島県でしか使われていないが、このまめ管はどうやら各地の牡蠣養殖で使われているのだとか。最近の牡蠣ブームを反映しているのかな？　とにかく、今後も注目したいごみなのである。

▼そして、以前より言われているが海ごみのほとんどは陸域由来なのである。海にどんぶらこっこと出て行ってしまう前に何とかしないといけないのだ。

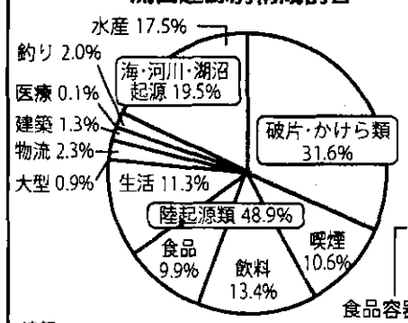



▼9月12日にはJEANの小島あずさんをひがたらぼにお招きして、ミニ学習会を行った。海のごみの多くを占めるプラスチック製品。世界全体の生産量は年に4億トン。日本人ひとりあたり1年に75キログラムを使っていることになる（2012年）。ペットボトルに換算すると180本だそうだ。今年は特に暑かったので、もっとおおくなっているかもしれない。

▼最近は5ミリメートルリ以下のマイクロプラスチックが話題になっているけれど、これらは私たちの生活に登場した50年前から海に流出していたプラスチック製品が砕けたものが大半であって、今まさに海に出て行くものも現在進行形で破片になっていく。そう思うと、私たちは膨大な負の遺産を海と未来に残し続けていることになる。

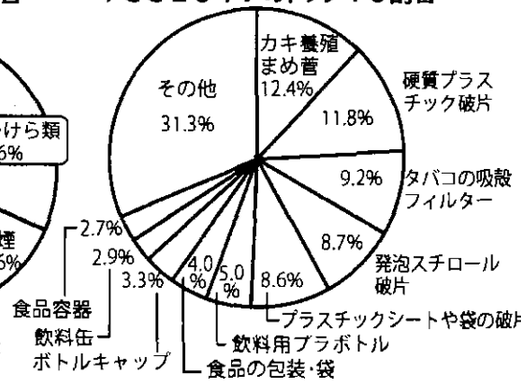
▼もうさあ、「ウミガメがかわいそう」とかって、感傷的になってストローを天然素材に換えるとか使わないとか、そんなレベルの話じゃないんだよ。さて、どうする？　自分なら何ができる？　あなたは何をする？　個人も、行政も、企業も、社会全体がそろそろ真剣に自分たちのライフスタイルを見直す時期だと思うんだ。

**流出起源別構成割合**




情報
国際海岸クリーンアップ2017結果概要
発行：一般社団法人ＪＥＡＮ

**ＩＣＣ２０１７のトップ１０割合**




■活動報告（2018.6.1～2018.8.31）

6. 3 NPO法人水辺に遊ぶ会通常総会
6. 4 大分県森林づくり会議出席
6. 5 小楠小学校4年干潟学習講師
6. 6 カブトガニ調査
6. 7 三毛門小学校4年干潟学習講師
吉富小学校4年干潟学習講師
6.12 北部小学校2年図工サポート
カブトガニ調査
三毛門小学校4年干潟観察講師
6.13 吉富小学校4年干潟観察講師
6.14 三郷小学校4年山川海の学習講師
6.15 大分市教育センター研修会講師
6.22 カブトガニ調査
6.25 豊田小学校6年川の学習講師
6.26 豊田小学校1年海の学習講師
豊田小学校4年海ごみの学習講師
6.27 カブトガニ調査
6.28 北部小学校2年山国川生物観察講師
6.28 豊前東芝社員研修講師
6.29 長峰小学校4･5年川の学習講師
北部保健所運営協議会出席
7. 2 中津市環境審議会出席
7. 3 バングラデシュ鳥類研究者案内
7. 4 社協ボランティア運営委員会
7. 6 大分県NPO協働モデル事業報告会
7.9～10 カブトガニ調査
7.9～10 大新田海岸・松林草刈り
7.12 東中津中学校ボランティア活動指導
カブトガニ調査
7.19 ケーブルテレビ出演
7.21 山国川おサカナ観察会主催
7.24 日田市立博物館干潟観察会講師
屋形公民館生涯学習講座講師
7.25 帝王紫ワークショップ主催
7.26 ひがたかふぇ
7.27 カブトガニ産卵調査
7.28 なつやすみ干潟観察会主催
7.29～8.26 ひがたらぼ夏休み対応
8. 1 環境省中央環境審議会出席
8. 4 アカデミアオープンラボ主催
8. 8 社協てくてく干潟観察会講師
8. 9 九州大学夏休みワークショップ講師
8.10 九州大学夏休みワークショップ講師
カブトガニ調査
8.20 カブトガニ調査
ＴＯＳ海と日本P.J.干潟観察講師
8.22 環境省中央環境審議会瀬戸内海環境保全小委員会出席
8.23 アカデミアオープンラボ主催
8.24 アカテガニ産卵観察会台風で中止
8.25 アカデミアオープンラボ主催
カブトガニ調査
8.26 小網代の森緑地視察
8.27 三井物産環境基金説明会参加
8.29 舞手川他地形調査
8.30 アライグマ調査

**行事の詳細は順次お知らせします。**

### 水辺に遊ぶ会今後の行事予定

※日程は変更になることもあります。詳細はお届けするチラシやホームページで確認してください。

かざりのり巻き教室●１０月１４日（日）９:30～12:00
大新田ビーチクリーン＆松林再生活動
●１２月２日（日）９:00～10:00
ズグロカモメと冬鳥観察会●１２月２日（日）13:30～15:30
中津干潟アカデミア第２回研究発表会
●１２月２３日（日）９:00～16:00（予定）

### ひがたかふぇ

**９月２７日（木）18:30～20:00**
**参加費300円（軽食付）ひがたらぼ**

●「環境や生きものの専門的な話が聞きたい」とか「子どもが大きくなってイベントには参加しにくいけど、おしゃべりはしたいのよねー」というお声にお応えして？サイエンストーク（30分程度）とおしゃべりの会をはじめました。

### ご寄付をいただきました。ありがとうございました。

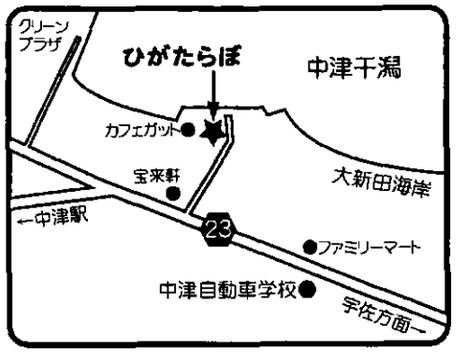
「砂浜海岸の自然と保全」編者：須田有輔　出版：生物研究社
印税を活動にご寄付いただきました。心より御礼申し上げます。

**H30年度の活動にご支援ありがとうございます。**

**TOTO水環境基金様**
**SAVE JAPAN PROJECT様**
**九州ろうきんNPO助成様**

中津市内のアライグマ情報集めてます。なにかご存じでしたら事務局までご連絡ください。

### ひがたらぼに遊びに来てね




**開館時間**
**10時～16時**
**土日祝日休館**

電話：0979-77-4396
（ひがたらぼ平日9:00-17:00）
FAX：0979-77-4396
info@mizubeniasobukai.org
http://mizubeniasobukai.org/

水辺に遊ぶ会

### へんしゅうこうき

■水辺に遊ぶ会が一番忙しい夏の期間を無事終えることができました。それにしても猛烈に暑かった夏でした。夏休み干潟観察会は、急遽、塩タブレットと急冷材を参加者に配布し、干潟からあがってきたところでは身体を冷やすためにクラッシュアイスを用意しました。おかげさまで無事終了しましたが、夏休みのイベントの在り方を今後考え直さないといけないかなあ。（う）

# 3分でわかる水辺に遊ぶ会夏の風景

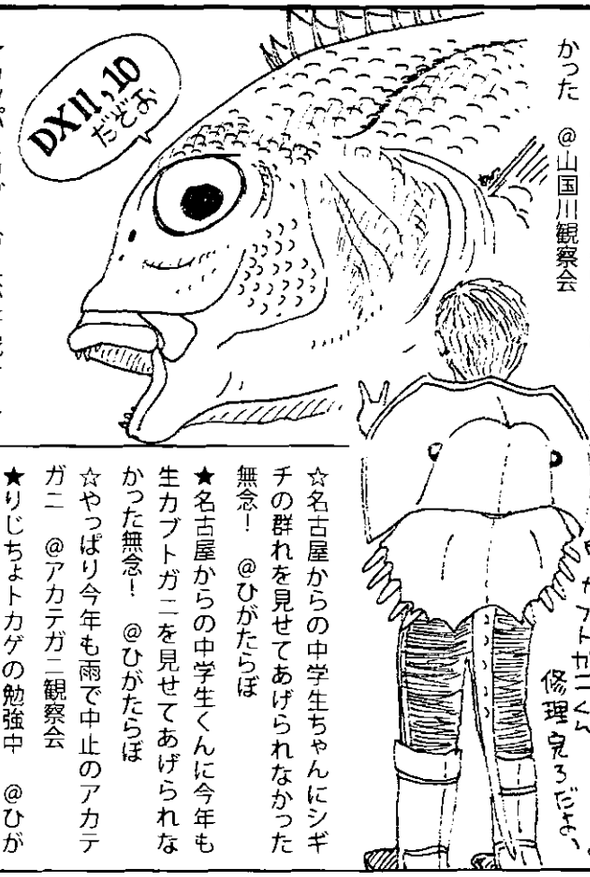
★アカニシで染めた薄紫のストールが風になびく景色が素敵♡　@帝王紫WS

☆アカニシの炊き込みご飯とアカニシパスタさいこー！　@帝王紫WS

★オジサマたちがストール首にまきまきして帰るラブリーな後ろ姿　@帝王紫WS

☆やっぱり現れたかっぱちゃんたち　@山国川観察会

★久しぶりの山国川はやっぱり楽しかった　@山国川観察会




☆カッパとカブトガニが研究テーマという先生の楽しそうな干潟歩き　@干潟観察会

★もはや定番、干潟観察会の後つめたーいかき氷　@干潟観察会

☆もはや干潟は風呂よりも暑いのだった　@干潟観察会

★カブトガニ青年現る！　@生物調査

☆満潮の海の中、まてどくらせど来ないカブトガニを探すレスリング部くん　@生物調査

☆タツノオトシゴが見つからない！　@ちりもん

★ヒレ立てて四角で囲ってどろーんってなに？　@中津干潟アカデミア

☆魚のヒレの数え方会得！　@中津干潟アカデミア

★Sセンセイの講座で生物学の基礎を学び初心にかえるりじちょ　@中津干潟アカデミア

☆おかしい　自分の皿だけ生きものがいない　@中津干潟アカデミア

★どろーん墜落　@中津干潟アカデミア

☆タケコプターは頭がネジ切れっぞ　@中津干潟アカデミア

★ハクセキレイ1羽しか写ってなかった3000枚の写真　@生物調査

☆末端価格キロ2000円の衝撃！　@中津干潟

★末端価格100グラム25万円の衝撃!!　@中津干潟

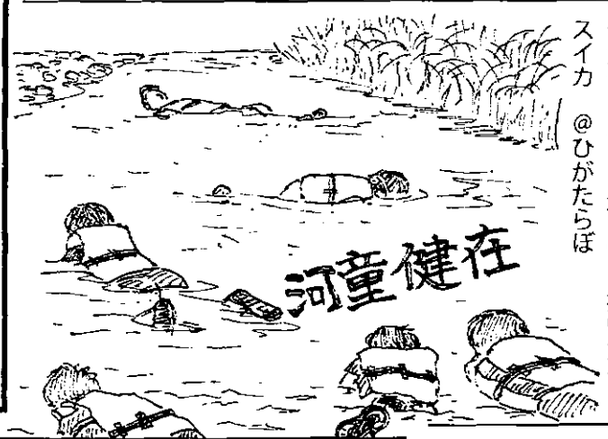
☆名古屋からの中学生ちゃんにシギチの群れを見せてあげられなかった無念！　@ひがたらぼ

★名古屋からの中学生くんに今年も生カブトガニを見せてあげられなかった無念！　@ひがたらぼ

☆やっぱり今年も雨で中止のアカテガニ　@アカテガニ観察会

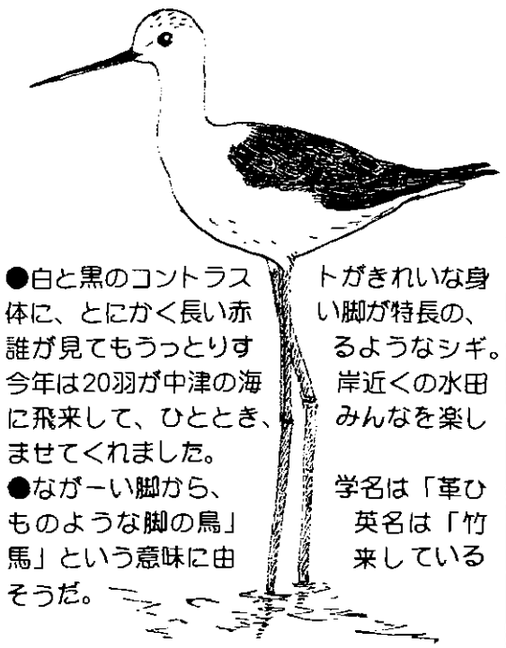
★りじちょトカゲの勉強中　@ひがたらぼ

☆カラスとタコから守り抜いたぜ！スイカ　@ひがたらぼ




## よい子の里海里浜図鑑　セイタカシギ

チドリ目セイタカシギ科

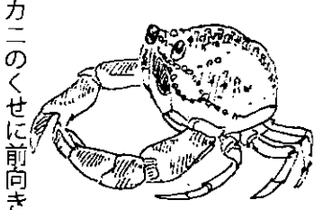


●白と黒のコントラストがきれいな身体に、とにかく長い赤い脚が特長の、誰が見てもうっとりするような今年は20羽が中津の海に飛来して、ひととき、みんなを楽しませてくれました。

●ながーい脚から、学名は「革ものような脚の鳥」英名は「竹馬」という意味に由来しているそうだ。

# 事件です！

## マメコブシガニ失踪




▼丸っこい形と、カニのくせに前向きに歩いたり、死んだふりが得意だったり、観察会の人気者の**マメコブシガニが中津干潟から姿を消した！**事件が起こったのは去年の夏。全然いなくなったわけじゃないけど、あんなにたくさんいたマメコブシちゃんが、たくさん歩いて数匹しか見つからない。今年の春も夏もやっぱりいない。何があったんだ？？？

アヤシイ干潟調査隊には原因はさっぱりわからない。干潟の保全とかってかっこいいこと言ってるけど、こういうとき、我々はてんで無力なのだ(涙)…でも、今年の夏の終わり、干潟を歩くと、小さな小さなマメコブシの赤ちゃんが干潟にたくさんいるのを発見した。よかったー。この子たちが大きくなれば、来年はまた観察会で会うことができるね。ひと安心だ。

▼長い長い干潟の歴史の中で、生きものたちは増えたり減ったりを繰り返しているのだろう。でも、アサリのようにある時突然姿を消して、全く見えなくなってしまう生きものもいる。その原因はなんなのか？　突然の大雨や台風、高温や寒気などかもしれないし、病気の流行かもしれない。食べちゃう敵が現れるなんてこともある。もしかしたら、私たちニンゲンのせいかもしれない…。

さて、来年の春、マメコブシガニたちの元気な姿が見れるだろうか。

## ボランティアとは何か

▼市内某中学校。今年の3年生の総合的な学習の時間のテーマのひとつを、昨年度のふるさと中津の町づくりの学習からの引き続きで、ボランティアでどうかという提案が通ってしまい現在進行中。まあ、まず、体験をしてみようということで理事長の話を聞き、大新田の作業を体験してみた。7月上旬の強烈な暑さの中、徒歩で大新田に向かう。ビーチクリーンと松葉かきと堆肥返しをしたんだけどね。ほんと、体調不良者が出なくて良かったわい。

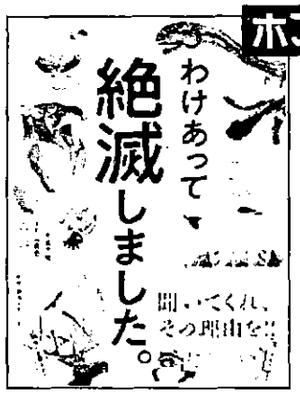
▼ボランティアって何だろう。自分が行なうことで社会の役に立つのは事実だ。だけど人のためと思ってやると、何時か破綻すると思うのよね。そんな時、かのスーパーボランティアが脚光を浴びることに！　驚いたね。しかも大分県人。彼もまた人のためにやってるわけではないと思う。

彼曰く「いただいた恩をお返しするのは当たり前。それが人の仁義です。どのような形で恩を返そうかと考えたとき、第二の人生をボランティア活動にささげようと決意しました。」

自分たちも海の恩恵を受けて暮らしているから恩返しする。それも一つの理由だよね。でも彼も、自分たちも、人のためだけでなく、自らのために活動しているのだと私は思う。

▼大新田の作業の後、私は生徒たちに言った。これはあくまでボランティアの真似事、ボランティアをしている人達に近づく第一歩、君たちの本当のボランティアは自分から進んで足を運んだ時だと。私は密かに期待しながら、学年掲示板にビーチクリーンのポスターを貼ったが、参加者はゼロだった。道のりは遥か…。　（あっしー）

## ホンの紹介




### わけあって絶滅しました。

監修 今泉忠明　著 丸山貴史
絵 サトウマサノリ・ウエタケコーコ
発行 ダイヤモンド社

●絶滅理由のランキング1位は理不尽な環境の変化、2位はライバルの出現、3位は人間のせい。この1位の「自然が引き起こした絶滅」と3位の「人間がかかわった絶滅」とでは同じ絶滅でも大違いなのだ。自然に起こった絶滅はそれを乗り越えて次の世代の動物があらわれるけれど、人間が起こした絶滅は次の進化した動物をうみ出さないからだって。

●今は亡き絶滅動物のグチと反省文が満載です。オモシロイ例を紹介します。

・風がふかなくなって絶滅　アルゲンタビス（大きな鳥）→もっと体重軽ければ・・・。

・笑いすぎて絶滅　ワライフクロウ→笑わずに違う場所に逃げればよかった（笑）

・こんがらがって絶滅　ニッポニテス（アンモナイトの仲間）→形より先に生き方をかえるべきだったなって思います。

・デコりすぎて絶滅　オパビニア（分類不明）→ほどほどにしておけばよかった。

一方、絶滅しそうでしてないカモノハシ、ライチョウ、オウムガイ、シーラカンスなどのサバイバルの秘訣の紹介もあります。（も）

●新しいコンセプトで人気の本ですが、生物の基礎情報も各ページに解説されていて、生物に興味を持つきっかけを提供してくれます。